

ブドウ‘シャインマスカット’の無核栽培における花穂整形法と果実形質

工藤 信

(山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場)

Effects of spike thinning on the fruit quality of ‘Shinemuscat’ with gibberellin treatment.
Makoto KUDO

(Yamagata General Agricultural Research Center Department of Agro-production Science)

1 はじめに

従来の品種にない良食味と外観の美しさを備えたブドウ新品種‘シャインマスカット’を早急に産地化するため、安定生産技術の開発に着手している。

‘シャインマスカット’の無核栽培における花穂整形は主穂の先端部を用いるのが一般的であるが、ここでは、主穂先端に形態異常が発生した場合の対応策や整形作業の省力化を想定して数種の花穂整形法を実施し、着粒や果実品質に及ぼす影響を検討した。

2 試験方法

- (1) 供試樹 ‘シャインマスカット’ / テレキ 5BB
9 年生 1 樹
(X 型長梢剪定、雨除け栽培)

(2) 試験区

試験区	花穂整形の手法
主穂先端区	主穂の先端 4cm を残した
主穂切詰め区	主穂先端 1~2cm 切り詰めその上部 4cm を残した。
長支梗区	やや長めの第 1 支梗の先端 4cm を残した。
短支梗区	4~5cm の短い支梗の先端 4cm を残した。

※図 1 参照

(3) 花穂整形の時期と方法

開花始期 (6 月 15 日) から 1 新梢 1 房に摘房し、残した 1 つに対して上記の花穂整形を行なった。

(4) 被覆時期および無核処理方法

雨除け被覆は 5 月 10 日行った。無核化のためストロブトマイシン 200ppm を 6 月 8 日に散布し、満開時 (6 月 17 日) と満開 10 日後 (6 月 27 日) にジベレリン 25ppm を浸漬処理した。

(5) 調査項目

- 1) 着粒調査 : 7 月 3 日に各区 12 房ずつ調査した。

- 2) 果実品質 : 9 月 28 日に果房重、果房長、果房幅、着粒数、果粒重、果梗長、支梗数、糖度、酸度について、着粒調査と同じ 12 房を調査した。

3 結果の概要

- (1) 着粒数は、主穂切詰め区が最も多い 56.4 個、次いで主穂先端区が 50.2 個となり、一方、長支梗区は 42.8 個、短支梗区は 40.8 個と支梗を利用した 2 区で少なかった (表 1)。

- (2) 果実品質は、主穂先端区と主穂切詰め区の果粒重が 14g を越えたのに対し、長支梗区、短支梗区は 13g 台とやや小さかった。また、主穂先端区と主穂切詰め区は、支梗利用の 2 区より着粒数が多く確保され、密着した果房が得られた (表 2、図 2)。

- (3) 果房形は、主穂切詰め区が他の区よりやや幅が広い円筒形に仕上がりに、主穂先端区はやや縦長の円筒形~円錐形、長支梗区と短支梗区は円錐形の房形となった (図 2)。

4 まとめ

‘シャインマスカット’の無核栽培では、主穂を利用すると着粒が良く果粒重が大きくなり、密着した果房が得られると考えられたが、支梗を利用しても、商品性のある果房が得られることが明らかとなった。

ただし、支梗を利用する場合は着粒確保、果粒肥大促進に留意する必要があると考えられた。

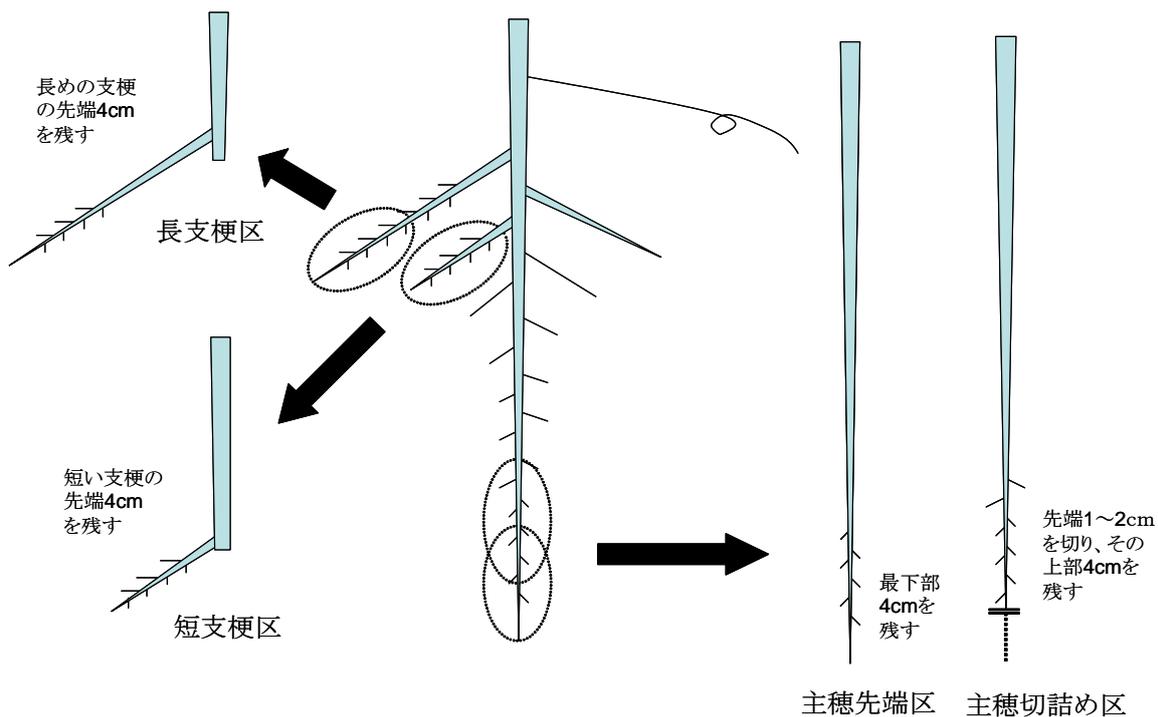


図1 各区の花穂整形法のイメージ

表1 花穂整形法別着粒数 (H18)

試験区	着粒数/房 (個)
主穂先端区	50.2
主穂切詰め区	56.4
長支梗区	42.8
短支梗区	40.8

調査日:7/3(摘粒前)

表2 花穂整形法別の果実品質 (H18)

試験区	果房重 (g)	果房長 (cm)	果房幅 (cm)	着粒数 (個)	果粒重 (g)
主穂先端区	649.7	17.1	11.1	42.9	14.9
主穂切詰め区	672.5	15.5	12.0	46.4	14.3
長支梗区	543.7	16.3	11.5	39.9	13.3
短支梗区	486.2	15.8	11.3	35.9	13.3

果房長 (cm)	支梗数 (本)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)
10.2	16.0	19.8	0.24
8.2	13.7	20.0	0.27
10.5	14.9	20.4	0.23
9.9	14.4	20.1	0.22



主穂先端区

主穂切詰め区

長支梗区

短支梗区

図2 花穂整形法の違いと収穫時の果房の外観